

テーマ:色

東池袋第二保育園(豊島区)

テーマを設定する

「色」は、日常の保育の中でも扱うことの多いもので感覚・視覚からも楽しむことができる。また、この先継続していくにあたりどの年齢においても活動に取り入れて遊びを広げていけると感じる。

活動① アーティストワークショップ1

色とりどりの海の生き物を泳がせよう

環境をデザインする

●準備した物 子供たちが事前に制作したカラフルセロハン・ラミネート版、油性ペン、セロテープ、ハサミ、タピオカストロー、懐中電灯(人数分)、投光器、影絵スクリーン、スクリーンスタンド、ポータブルスピーカー ※制作は机上で実施(1台に4-5人) ※会場は暗幕で遮光

探究活動を実践する

●活動内容

- ①アーティスト&子ども、互いに自己紹介
 - ②今日は、この部屋(ホール)をぜんぶ「海」にします！
 - ③クジラや魚の影をスクリーンに映したり、波の音を奏でたり…
アーティストによるデモンストレーション
 - ④子ども作成のカラフルセロハン・ラミネート板に照明を当て
スクリーンで全員分一人ずつ紹介(カラフルラミネート板は前日に一人2枚作成済み)
 - ⑤「好きな海の生き物」をカラフルラミネート板に描いて、ハサミで切り抜く(サンプル下絵も活用)
 - ⑥手で持てるようにストローを接着してカラフルな「海の生き物」完成
 - ⑦「海の生き物」に懐中電灯で光を当て、部屋中泳がせる
床・天井・服・ホワイトボードなどに色とりどりの海の生き物が泳ぐ…
 - ⑧照明とスクリーンの間で子どもが泳いで、身体で海の生き物を表現(映った影を鑑賞)
 - ⑨最後は一人ひとり、波の音をサードラムでリレー形式で表現して終了
- 子供たちの様子
- ・「海の生き物」が完成した際に、ある子がストローの中に息を吹くと「フオ〜〜」と鳴った。「それ面白いね、船の汽笛とかにできそう！」とアーティストが答えると、「海の音、もっとできる…」と別の子ども反応。アイデアが湧いてきた様子が伺えた。
- ・「海の生き物」に懐中電灯で光を当て、部屋中泳がせると、床・天井・服・ホワイトボードなどに色とりどりの海の生き物が泳ぐ…光を近づけたり遠ざけたり、とことん試す姿が。影がふくらんで自分に迫ってくると「うおー！」と声を上げる子ども。「あ！床にもうつる！」「天井にもいる！」「先生の服にも！」「色まざった！」などの声が聞かれた。

活動スケジュール(4歳児クラス)

活動内容	実施日	時間/回	人数/回
① 絵の具で「海」はじき絵で「魚」づくり	R6.9月中	40分程度	16人
② アーティストワークショップ1 講師：渡辺麻依(演出家・俳優)他1名	R6.10.2 (水)	70分程度	18人
③ 星や惑星を描いて部屋に飾る	R7.2.5	40分程度	16人
③ アーティストワークショップ2 講師：渡辺麻依(演出家・俳優)他1名	R7.2.12 (水)	90分程度	15人



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・子供たちが、こんなに発見したりなりきったりすることができるんだと、新しい一面を見られる機会になった。自ら発見していた。
- ・セロファンを重ねて色が変わる面白さや、単色のきれいさを、それぞれが感じ取っていたように思う。
- ・ハサミでラミネートシートを切るのは難しかったが根気強く取り組めた。
- ・海の世界を、アーティストが音やお芝居のような声掛けで表現していて、子供たちもその世界に飛び込んだようだった。12月の発表会にも活かせそうだったと思った。



テーマ:色

東池袋第二保育園(豊島区)

活動② アーティストワークショップ2

蛍光カラーを使って制作したものを宇宙に飛ばそう(暗闇に浮かび上がらせる)

環境をデザインする

●準備した物 蛍光色の紙、キラキラシール、黒い土台の紙、蛍光色鉛筆、蛍光油性ペン、油性ペン、のり、ハサミ、セロハンテープ、マグネット、スクリーンスタンド、ブラックライト、懐中電灯(人数分/紫・青のセロハンをつける) ※制作は机上で実施(1台に3人) ※会場は暗幕で遮光
※制作時、暗闇になる小スペースを設置(段ボールを活用/光を当てて色の変化を確かめるため)

探究活動を実践する

●活動内容

- ①あいさつ&事前の活動について子どもたちとスモールトーク
※事前に宇宙について興味を広げるための活動を行っていた
- ②絵本『地球と宇宙のおはなし』の読み聞かせ～ハンドパン・鈴の演奏と共に～
- ③「今日は宇宙にありそうなものをつくってほしいと思います」
蛍光の紙を切り貼りして作った土星・ロケット(見本)を見せる
- ④部屋を暗くして見本にブラックライトをあてると・・・ぼんやり光った！
部屋を明るくしたり、暗くしたりして、色の見え方の変化に注目
- ⑤宇宙へのイメージを広げつつ、作り方を説明して制作開始
- ⑥蛍光ペンや蛍光色えんぴつで描いたり塗ったり、蛍光色紙やキラキラシールを切って貼ったり。
暗闇をつくった小さな実験スペースではライトをあてて色を確かめる。
制作机と実験スペースを行ったり来たりしながら思い思いに制作。
完成した子からひもを通して吊り下げる(スクリーンスタンドを活用)
- ⑦みんなで集まって一つひとつを鑑賞
- ⑧「宇宙に行くぞー！」宇宙で身体遊び～身体がふんわりふんわり／くらげみたいな宇宙人～
- ⑨青か紫のセロハンをつけた懐中電灯を一人ひとつ持って宇宙探索
- ⑩「光に照らすといつもと違うものが発見出来たり、いろいろな色が見えたね」
子どもたちに感想を聞いて終了

●子供たちの様子

・実験スペースでライトを当てると…使った素材ごとに、色の見え方、輝き方が違うことに気づいた様子。「きれい…」という声が上がった。さらに満足な仕上がりを目指して、キラキラシールの上に蛍光ペンで色を足したり、虹や星を描き足したりする子供たちの姿があった。
・ロケットを作っていた子は、暗闇でライトを当てると、ロケットが輝くことに気づいた。そこでアイデアがひらめき、細長く切った紙を貼り足して「炎」を表現。「ロケットから火がふくの！うちゅうまでゴゴーってとぶの！」と説明すると、「ピラピラするのがいいね」と友達からも称賛の声。自分の力で作りあげた喜びが溢れ、作品を先生や友だちに披露してまわっていた。



振り返りをふまえた気づき

●保育士から

- ・絵を描くことが苦手な子供たちもいたけれど、制作の活動がメインだったので、最後まで楽しく取り組むことができていた。
- ・友達が作っているものを真似している子もいたが、個々のこだわりポイントが違ったので、模範からオリジナルなものが出来上がっていた。
- ・蛍光ペンで描くことに夢中になる子、キラキラシールだけを使って制作する子、どの色を使うかも含め、それぞれの個性が出ていた。
- ・制作の場面、暗闇の中で光を当てて制作物が浮き上がる場面、身体を動かす場面と様々な展開があったので、子供たちそれぞれが夢中になれるポイントがあった。
- ・1回目の活動が積み重なっていることを感じたし、オリジナリティに溢れていて子供たちの成長を感じた。